

## 北九州市立年長者研修大学校（周望学舎・穴生学舎）及び 北九州穴生ドーム 指定管理者検討会発言要旨

- 1 開催日時 平成30年10月15日（月）9：00～
- 2 場所 北九州市役所81会議室
- 3 出席者 （検討会構成員）  
大島構成員 太田構成員 小鉢構成員 樋上構成員 山中構成員  
（事務局）  
長寿社会対策課長、生涯現役推進係長、担当職員

### 4 会議内容

- 座長選出（事務局の提案、検討会の合意により）
- 議事次第、選定基準、採点上の注意事項等について事務局より説明
- プレゼン（北九州シニアネットワークアカデミー共同事業体より提案内容を説明）
- 質疑応答（北九州シニアネットワークアカデミー共同事業体との質疑応答）

（構成員） 社会の担い手の育成ということで、ボランティア養成講座等を行っているが、実際の活動につながっていない側面がある。それをつなぐための工夫はどうしているか。

（応募団体） 座学だけでは難しい。実情を知ることが必要で、民生委員さんなどから話を聞く。先進的な取組を行っているところに実際に行く。市民センターなど自分のまちで参加をしていく。そういう中で地域が自分の問題であると認識できる研修の組み立てを心がけている。また、ふれあいネットワークにつなげたり健康づくり推進会につなげたり、学んだ後のアフターケアを心がけている。

（構成員） 研修を終えて何割程度の方が地域活動をしているか。

（応募団体） 研修大学校に入ってくる時に45%の研修生が既に行っている。一年間研修を受けて新規で始める方が平成28年の実績で8%いたので、研修生全体の6割弱くらいになる。

（構成員） 学んだことを地域で活用しようと思っても地域の受け入れ体制が良くない。まちづくり協議会や市民センターで活動する場がないといわれたらそれでおわり。受け皿を地域で作らないとせっかく勉強してもつながらない。市と連携して社協の力で受け入れ態勢をなんとか作っていけないだろうか。

（応募団体） 夢追塾においては、若松二島のいこいの家で寺子屋プロジェクトを行い地域の人たちとのつながりができた。これを7区へと広げていきたい。  
社協では、地域支援コーディネーターを区社協・市社協で育てている。研修の中でも15コースで説明してきた。こういう人たちが触媒になってつながってほしいと考えている。

(構成員) つなぎ役ができたということだが、やはり根本は地元が受け入れ態勢を整えなければならない。市民センターやまち協がどんどんそういう人たちを受け入れて色々な方々でまちづくりをしていくのが望ましいと考えている。

(構成員) 夢追い空き家管理活用協議会・寺子屋プロジェクトとはどのようなものか。

(応募団体) 前者は空き家対策として卒塾生が地元の空き家のマッチングを行っている。具体的にはマッチングのデータを集計中であり今後実施していく。

後者は、年長者いこいの家の利活用であり、年長者いこいの家を使った縁側プロジェクト。市民センターは少し敷居が高いので、もう少し開いた形で高齢者と子供たち、高齢者と若者が交わる場。地域で学ぶといった夢追い塾のライト版でもある。一年以上続いている。

(構成員) 3つの施設を当初から管理している。私どもも利用させてもらっており、力不足を探すのが難しい。長年のノウハウもある。

申込方法の検討とはどういうことか。利用者にとって簡単な方法がいいと思うが。

(応募団体) 年間コースの申込みもインターネットでできるように、また、ドームは窓口での申込みであるが電話やインターネットでもできるように考えている。

(構成員) 利用者は現場に行って申し込んでいたのを簡素化することによって、利用度や収入がアップする。ぜひともお願いしたい。

(構成員) 社協は長い間管理しており、社協が色々な活動をしているのは知っている。何も心配はないと思うが、NPOさんとの関係をしっかり書いたほうがよいと感じた。

○構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受け、提案についての評価を行い、得点を記入し発表。

○構成員による意見交換

(構成員) 専門分野を中心に見た。人生90～100年時代、高齢者で健康でない人のボランティア活動等の地域参加、多様な市民の利用について分からない点があった。また、避難所対応のシュミレーションについても確認したかった。しかし、全体としてこれまでの実績を評価した。

(構成員) 社協が地域でやっているサロン活動に、年長者研修大学校にいけない人が地域の学びの場として参加できるようになったら良い。ボランティアもサロンでデビューすることもできるかもしれない。避難所として指定されているので災害時の行政との連携も望みたい。職員数も十分だし24年間の実績もあり、専門資格を持っている職員もいるのでお任せできたらいいと思った。

(構成員) 共同体を構成する団体の個別収支をみると、過年度においてマイナスになっている部分もあり気になった。

(構成員) 資料だけでは、財務状況は分かりづらい。利用者の立場からは力不足の点が見当たらない。申し込み方法を簡素化して利用増を図って欲しい。

(構成員) 社協の正社員が35名、常勤が192名、正社員が少ないと感じた。収入は利用料に頼っている。利用者がいなければ事業が成り立たないのか不安。新規自主事業を社協としてできないのかが気になった。また、利用者の満足感があるかというところで、利用者のなかでやる気のある人をどう活かすかが課題。

○各構成員に意見の修正の機会を与えた後、採点結果を取りまとめ、検討会を終了した。